

厚生省心身障害母体外因研究班「妊婦貧血」分科会

第1回会合議事録

日 時：昭和52年8月6日 午後3時～午後6時

場 所：東京ステーションホテル

出席者：松山栄吉（愛育病院）
青木 正（"）
沢田啓司（"）
古谷 博（順天堂大）
倉林道男（"）
永井生司（横須賀共済病院）
藤森 博（国立岡山病院）
清水哲也（旭川医大）
阿保秀夫（東北大）
近藤健文（厚生省）
川口雄次（"）

議 事：

妊婦における貧血が、母体および胎児ないし新生児、乳幼児にどのような影響や障害を与えるかを調査・研究するための方法について、第1回目の打ち合わせ会を行なった。

古谷、藤森研究員らより、約10年前に行なわれた妊婦貧血研究会の研究内容の説明がありその後妊婦管理面での妊婦の貧血の検査、予防、治療面の改善について、著しい進歩の見られたことが説明された。したがって、昔の妊婦の貧血が放置された時代と、かなり改善されている現在とでは、障害の程度もかなり異なってきたのは当然であり、それを研究するさいにも、以前とは異なった結果の出ることが当然予期される。

研究が4班に分かれて行なわれるので、それぞれの分担する研究課題について打ち合わせを行なった。その結果、次のような研究内容を決定した。

1. 古谷研究班：妊婦の貧血と新生児の血液障害に関する研究
2. 清水研究班：妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究
永井研究員はその班に属する
3. 藤井研究班：妊婦の貧血と周産期障害に関する研究
4. 藤森研究班：妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究

（注）その後検討の結果、上記の3と4のグループは、課題名を交替した。また藤井班の研究協力者として、有広忠雅（慈恵医大）、河上征治（慶大）が、藤森班の研究協力者として関場香（岡山大）、高知床志（岡山市市民病院）が追加された。

第 2 回会合議事録

日 時： 昭和 53 年 3 月 7 日 午後 4 時～午後 7 時

場 所： 東京ステーションホテル

出席者： 松山栄吉（愛育病院）
藤森 博（国立岡山病院）
高知床志（岡山市民病院）
江口勝人（岡山大）
川口清彌（＃）
古谷 博（順天堂大）
倉林道男（＃）
清水哲也（旭川医大）
永井生司（横須賀共済病院）
大橋一夫（＃）
藤井 仁（愛育病院）
青木 正（＃）
有広忠雅（慈恵医大）
河上征治（慶応大）
沢田啓司（愛育病院小児科）
千賀悠子（愛育研究所）
鈴木雅洲（東北大）
阿保秀夫（＃）
中原俊隆（厚生省）

議 事：

昭和 52 年度（初年度）の研究内容について、それぞれのグループ別に発表し、意見の交換を行なった。研究内容のテーマは、次のようである。

I 妊婦の貧血と新生児の血液障害に関する研究（分担研究者：古谷博）

○妊婦の貧血と新生児の血液障害に関して、特に治療を中心として。

順天堂大 古谷 博 倉林道男

II 妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究（分担研究者：清水哲也）

○妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究。 旭川医大 清水哲也

○妊婦の貧血と妊娠中毒症の関係。 横須賀共済病院 永井生司

III 妊婦の貧血と周産期障害に関する研究（分担研究者：藤森 博）

○妊婦の貧血と周産期障害に関する研究。 国立岡山病院 藤森 博

○妊婦貧血の周産期に及ぼす影響に関する研究。 岡山市民病院 高知床志

○貧血の母子に及ぼす影響に関する研究。 岡山大 関場 香

IV 妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究（分担研究者：藤井 仁）

○妊婦の貧血の母子に与える影響について。 愛育病院 藤井 仁

○分娩前後の母体末梢血中のヘモグロビン値差と産褥初発卵卵の検討。

慶応大 河上征治

○妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究。 慈恵医大 有広忠雅

討議の内容を総括すると、次のようである。

15年前ころの妊婦の貧血が放置されていた時代に比べると、現在は妊婦管理がよく行なわれており、貧血も積極的に治療されるようになっていたので、その実情はかなり変わって好転している。それは藤森が昔行なった調査と現在の調査との比較でも明らかである。したがって昔見られたような障害が減少していることは確かである。また従来は妊婦の貧血はWHOの基準に従っていたが、この数値以下の者でも異常がない者も多いので、新しい基準を考慮する必要がある。いままで貧血の障害といわれた妊娠中毒症や周産期障害に対しても、検討しなおしていくことが必要である。